

# NetIQ Identity Manager 4.8 Service Pack 1 リリースノート

2020年5月



NetIQ Identity Manager 4.8 Service Pack 1 には、新機能や拡張機能が追加され、さらに使いやすくなっており、以前にあった問題もいくつか解決されています。

これらの改善の多くは、お客様から直接ご提案いただいたものです。皆様の貴重なお時間とご意見に感謝いたします。弊社の製品が皆様のご期待に添えるよう、引き続きお力添えを賜りたく存じます。フィードバックは当社オンラインコミュニティ「NetIQ Communities」の [Identity Manager Community Forums](#) からお寄せください。こちらのコミュニティには、製品情報、ブログ、役立つリソースへのリンクなども掲載されています。

この製品のマニュアルと最新のリリースノートは、NetIQ の Web サイトで、ログインする必要のないページから入手できます。マニュアルを改善するためのご提案がございましたら、[Identity Manager マニュアルの Web サイト](#)に掲載されている本マニュアルの HTML 版で、各ページの下にある [comment on this topic (このトピックにコメントする)] をクリックしてください。

## 1 新機能と変更点

Identity Manager 4.8.1 の主要機能、拡張機能、およびこのリリースで解決された問題を以下に示します。

- ◆ [1 ページのセクション 1.1 「新機能と拡張機能」](#)
- ◆ [5 ページのセクション 1.2 「コンポーネントの更新」](#)
- ◆ [6 ページのセクション 1.3 「ソフトウェアの修正」](#)

### 1.1 新機能と拡張機能

Identity Manager 4.8.1 のこのリリースの主要機能および拡張機能を以下に示します。

- ◆ [1 ページのセクション 1.1.1 「プラットフォームのサポート」](#)
- ◆ [2 ページのセクション 1.1.2 「Identity アプリケーションの新機能と拡張機能」](#)
- ◆ [2 ページのセクション 1.1.3 「Identity Reporting の新機能と拡張機能」](#)
- ◆ [3 ページのセクション 1.1.4 「Designer の新機能と拡張機能」](#)
- ◆ [5 ページのセクション 1.1.5 「Form Builder 新機能と拡張機能」](#)

#### 1.1.1 プラットフォームのサポート

このサービスパックは、既存のオペレーティングシステム (OS) に加えて次の OS をサポートします。

- ◆ SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 12 SP5
- ◆ Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 7.7 および 8.1
- ◆ Mac 10.15 for Designer

## 1.1.2 Identity アプリケーションの新機能と拡張機能

Identity Applications のコンポーネントには、次の新機能と拡張機能が追加されています。

### 1.1.2.1 組織図の新機能

Identity Manager ダッシュボードの組織図機能は、組織内の任意のエンティティの組織図を検索および表示可能な新しいオプションと設定で拡張されました。組織図は、ユーザ、グループ、またはカスタムエンティティなどのエンティティ間の関係を階層的に表現したものです。Identity Manager 4.8.1 では、組織チャートページで表示したいデフォルトの関係のセット、すなわち、マネージャ - 従業員、メンター - 従業員、ユーザグループ、およびグループのメンバーシップから選択できるようになりました。Designer を使用してディレクトリ抽象化レイヤでカスタム関係を作成することもできます。詳細については、『[NetIQ Identity Manager - Administrator's Guide to Designing Identity Applications](#)』を参照してください。

組織図は、関係階層をナビゲートして、特定の役割またはレポートングレベルのユーザを検索することにより、組織内のユーザを検出するのに使用できます。また、上位レベルのユーザや個々のユーザの同僚、それらの連絡先の詳細を表示したり、電子メールを送信することもできます。詳細については、『[NetIQ Identity Manager - User's Guide to the Identity Applications](#)』の「[Managing the Organization Chart](#)」を参照してください。

### 1.1.2.2 Identity Applications の新しいローカライズ言語のサポート

Identity Applications のエンドユーザ画面は、翻訳言語としてヘブライ語とポーランド語をサポートします。サポートされる翻訳言語に関する詳細については、『[NetIQ Identity Manager Overview and Planning Guide](#)』の「[Translated Components and Installation Programs](#)」を参照してください。

### 1.1.2.3 エンタイトルメントのリソース重み付け機能のサポート

ドライバがエンタイトルメントを接続システムに割り当てるために、Identity Manager Applications のエンタイトルメントリソースがリソース重み付け属性とともに追加されました。リソース重み付けはエンタイトルメント割り当ての順序を制御します。複数のエンタイトルメントが存在し、互いに依存関係を持つ複合接続システム (SAP、EBS、Azure AD など) の場合、リソース重み付けはドライバを使用してユーザにエンタイトルメントを割り当てるのに役立ちます。リソース重み付け機能の詳細については、『[NetIQ Identity Manager - Administrator's Guide to the Identity Applications](#)』の「[Assigning Weightage to the Resource](#)」を参照してください。

### 1.1.2.4 グループおよびコンテナの SoD 競合を処理する機能

Identity Manager 4.8.1 では、競合する役割を持つグループとコンテナのメンバーを識別できます。

定義されている義務の分離 (SoD) に基づいて役割を割り当てるか要求する場合、役割の競合が識別され、影響を受けるメンバー/ユーザがターゲット受信者 (グループまたはコンテナ) の新しいモーダルで表示されます。詳細については、『[NetIQ Identity Manager - User's Guide to the Identity Applications](#)』の「[Requesting Permissions](#)」を参照してください。

## 1.1.3 Identity Reporting の新機能と拡張機能

Identity Reporting には、次の新機能と拡張機能が含まれています。

### 1.1.3.1 新しい Reporting クライアントのサポート

Identity Reporting 6.6 では、認証サーバへの Identity Reporting のシングルサインオンクライアントである、新しい rpt クライアントが導入されています。既存の rpt クライアントは引き続き使用できます。

### 1.1.3.2 Identity Reporting のリバースプロキシサーバサポート

Identity Manager 4.8.1 では、Identity Reporting を介してリバースプロキシサーバを使用できます。

Identity Reporting を実行するサーバは、Micro Focus Reporting Content Delivery Network (CDN) から Identity Manager の最新のレポートにアクセスしてダウンロードできるようにインターネットにアクセスできる必要があります。

Identity Reporting サーバがインターネットにアクセスできない場合は、情報にアクセスして、Identity Reporting サーバにその情報を送信可能なリバースプロキシサーバが必要です。NetIQ では、Identity Reporting サーバとの通信にリバースプロキシを使用することをお勧めします。これにより、インターネットから Identity Reporting サーバを分離させることができます。詳細については、『[Administrator Guide to NetIQ Identity Reporting](#)』の「[Configuring the Identity Reporting Server to Use Reverse Proxy Server](#)」を参照してください。

### 1.1.3.3 ダウンロードページの Identity Manager レポートの分離

Identity Reporting 6.6 より前では、Identity Manager および Identity Governance のすべてのレポートが同じダウンロードページからダウンロードできました。Identity Reporting 6.6 では、Identity Manager および Identity Governance のレポートは、[ダウンロードサイトの idm/ および ig/ ディレクトリ](#)でそれぞれ入手できます。

## 1.1.4 Designer の新機能と拡張機能

Designer には、次の機能拡張が施されています。

### 1.1.4.1 ドライバフィルタのカスタマイズされた変更を元に戻す機能

このリリースでは、ドライバフィルタで行ったカスタマイズを元に戻す新しいオプションが導入されています。たとえば、カスタムパッケージをドライバにインポートする場合、Designer ではドライバフィルタで行った以前のカスタマイズを元に戻すことができます。変更が元に戻されると、カスタムパッケージをドライバにシームレスに追加できます。

ドライバフィルタに適用された変更を元に戻すには、次の手順を実行します。

- 1 Designer を起動します。
- 2 アウトラインビューで、必要なドライバに移動します。
- 3 **[Driver Filter (ドライバフィルタ)]** を右クリックして、**[Revert Customization (カスタマイズを元に戻す)]** をクリックします。
- 4 **[OK]** をクリックします。

### 1.1.4.2 マルチサーバ環境のすべてのサーバに ECV をコピーする機能

このリリースでは、マルチサーバ環境のすべてのサーバに ECV 値をコピーできる新しいオプションが導入されています。

すべてのサーバに ECV 値をコピーするには、次の手順を実行します。

- 1 Designer を起動します。
- 2 **[Windows] > [初期設定]** に移動します。
- 3 **[NetIQ] > [Identity Manager] > [環境設定]** の順に展開します。
- 4 **[一般]** タブで、**[Set ECVs on all the Associated Servers during package installation]** チェックボックスを選択します。

#### 1.1.4.3 親クラスから継承されたすべての属性を表示する機能

Designer では、親クラスから継承されたすべての属性を表示できます。

継承されたすべての属性を表示するには、次の手順を実行します。

- 1 Schema Editor を開きます。
- 2 クラスを選択して、それをエディタに追加します。
- 3 エディタで、クラスを選択して、[Insert Identity Vault Attributes (アイデンティティボールド属性の挿入)] をクリックします。

#### 1.1.4.4 Designer 内で複数の通知テンプレートを作成する機能

Designer では、複数の通知テンプレートを作成して、カスタム電子メールアドレスで電子メール送信できます。デフォルトの通知コレクションのほかに新しいカスタム通知コレクションを作成できます。新しいコレクションに電子メールサーバのホストプロパティの詳細を含めます。ホストはすべてのテンプレートを処理することができます。

#### 1.1.4.5 電子メール通知サーバの新しいオプション

このリリースでは、電子メール通知テンプレートで設定し、有効にするための2つのオプションが追加されました

- ◆ SSL
- ◆ タイムアウト値

これらの新しい設定済みオプションを表示するには、次の手順を実行します。

1. アイデンティティボールド、ドライバセット、およびデフォルトの通知コレクションをインポートします。
2. [Default Notification Collection (デフォルトの通知コレクション)] をダブルクリックします。

#### 1.1.4.6 インポート、比較、または展開操作が実行された後で接続がタイムアウトした場合に Designer に再接続する機能

Designer では、再接続して、展開、比較、およびインポート操作を実行できます。

#### 1.1.4.7 操作イベントへの電子メールの送信および Entitlement Operations (エンタイトルメント操作) オプションのサポート

特定のイベントをログに記録するための [電子メールの送信] および [Entitlement Operations (エンタイトルメント操作)] を選択できます。エンタイトルメントを実装するドライバが DirXML イベントの処理を完了すると、監査イベントが生成され、エンタイトルメントの状態が報告されます。

#### 1.1.4.8 if-dest-attr および if-src-attr アクションの <arg-dn> および <arg-association> 引数のサポート

このリリースでは、クラス属性 <arg-dn> および <arg-association> を if-dest-attr および if-src-attr アクションに追加します。

#### 1.1.4.9 ドライバレベルのシミュレーションの実行中にすべてのポリシーの入力を再使用するためのサポート

4.8.1 リリースでは、[初期設定] ページに残りのポリシーの初期入力を引き続き順番に使用するための新しいオプションが含まれています。初期ドキュメントをすべてのポリシー設定の入力として設定するには、[Designer] > [Windows] > [初期設定] > [NetIQ] > [Identity Manager] > [Simulation (シミュレーション)] > [オプション] の順に移動します。

ドライバレベルのシミュレーションでは、入力ページの [Use initial input document for policy simulation] オプションを選択して、他のポリシーの入力を再使用できます。

Designer の [初期設定] でこの設定を行うと、入力ページのオプションが自動的に選択されます。

### 1.1.5 Form Builder 新機能と拡張機能

Form Builder には、次の機能拡張が施されています。

#### 1.1.5.1 すべてのタブのコンテンツをレンダリングする機能

このリリースでは、すべてのタブが最初にロードされたときに、それらのコンテンツをレンダリングするための新しい設定が導入されています。

この設定を有効にするには、次の手順を実行します。

- 1 Form Builder を起動します。
- 2 [Layout Components] に移動します。
- 3 [タブ] コンポーネントをフォーム作成領域にドラッグアンドドロップします。
- 4 [表示] タブで、[すべてのタブコンテンツをレンダリング] チェックボックスをオンにします。
- 5 フォームを保存します。

この設定により、各タブが最初にロードされたときに、それらのコンテンツがレンダリングされます。デフォルトでは、最初のタブに対してのみコンテンツがレンダリングされます。

#### 1.1.5.2 API コールを使用して選択フィールドのオプションを設定する機能

このリリースでは、API コールを使用して Form Builder の [選択] コンポーネントのオプションを設定可能な新しい設定が導入されています。

この設定を有効にするには、次の手順を実行します。

- 1 Form Builder を起動します。
- 2 [基本コンポーネント] に移動します。
- 3 [選択] コンポーネントをフォーム作成領域にドラッグアンドドロップします。
- 4 [データ] タブの [データソースタイプ] フィールドで、[非同期 API] を選択します。API コールを使用して選択コンポーネントのオプションを非同期に設定する場合にこのオプションを使用します。
- 5 フォームを保存します。

## 1.2 コンポーネントの更新

このセクションでは、コンポーネントの更新に関する詳細について説明します。

## 1.2.1 Identity Manager のコンポーネントのバージョン

このリリースでは、Identity Manager の次のコンポーネントのサポートが追加されています。

- ◆ Identity Manager Engine 4.8.1
- ◆ Identity Manager リモートローダ 4.8.1
- ◆ Identity Applications 4.8.1
- ◆ Identity Reporting 6.6
- ◆ Identity Manager Designer 4.8.1
- ◆ Identity Manager ファンアウトエージェント 1.2.3

## 1.2.2 依存するコンポーネントの更新

このリリースでは以下の依存コンポーネントのサポートが追加されました。

- ◆ NetIQ eDirectory 9.2.2

eDirectory のアップグレードに関する考慮事項については、[15 ページのセクション 2.1「サポートされる更新パス」](#)を参照してください。

- ◆ NetIQ iManager 3.2.2

eDirectory 9.2.2 をサポートするには、iManager 3.2.2 をインストールする必要があります。既存のプラグインを、使用している iManager バージョンの最新バージョンに更新してください。

- ◆ NetIQ Self Service Password Reset (SSPR) 4.5.0.0
- ◆ NetIQ One SSO Provider (OSP) 6.3.9
- ◆ Sentinel Log Management for IGA 8.3.0

## 1.2.3 サードパーティのコンポーネントのバージョン

このリリースでは以下のサードパーティコンポーネントのサポートが追加されました。

- ◆ Azul Zulu 1.8.0\_252
- ◆ Apache Tomcat 9.0.33-1
- ◆ PostgreSQL 12. 2
- ◆ Oracle 19c
- ◆ ActiveMQ 5.15.12
- ◆ Microsoft SQL Server 2019

---

注：Microsoft SQL Server 2019 では mssql-jdbc-8.2.2.jre8.jar を使用する必要があります。

---

## 1.3 ソフトウェアの修正

NetIQ Identity Manager には、以下のコンポーネントのソフトウェア修正が含まれています。

- ◆ [7 ページのセクション 1.3.1「Identity Manager エンジン」](#)
- ◆ [8 ページのセクション 1.3.2「Identity Reporting」](#)
- ◆ [8 ページのセクション 1.3.3「識別情報アプリケーション」](#)
- ◆ [11 ページのセクション 1.3.4「Designer」](#)

## 1.3.1 Identity Manager エンジン

NetIQ Identity Manager には、Identity Manager エンジンにおける以前のいくつかの問題を解決する次のソフトウェアの修正が含まれています。

### 1.3.1.1 ドライバセット名にスペースが含まれている場合にダッシュボードを正常に表示する機能

名前にスペースあり / なしでドライバセットを選択する場合に、ダッシュボードが正常に表示されます。(バグ 1138704 およびバグ 1165489)

### 1.3.1.2 Identity Manager は監査が有効になっている場合にメモリークを処理する

Identity Manager は、監査が有効になっている場合にメモリークを正常に処理します。(バグ 1169405)

### 1.3.1.3 すべての dxcmd イベントのラベルが正しく表示される

すべての dxcmd イベントのラベルが正しく表示され、変更されたイベントが Identity Manager エンジン、Designer、および iManager から選択できます。(バグ 1158878 およびバグ 1164972)

### 1.3.1.4 カスタムイベント ID 1241 を正常に解析する機能

Identity Manager エンジンは、16 進形式でカスタムイベント ID 1241 を解析します。(バグ 1158734、バグ 1158738、およびバグ 1154388)

### 1.3.1.5 Identity Manager ドライバの開始と停止のイベントを生成する機能

Identity Manager ドライバは、eDirectory の再起動後に正常に起動します。ドライバの開始と停止のイベントは、CEF 形式で正常に記録されます。(バグ 1167839)

### 1.3.1.6 1024 文字を超える暗号化された属性を同期しても、eDirectory がクラッシュしなくなった

REST ドライバの eDirectory クラッシュの問題が解決され、Dxevent は 1024 文字を超える暗号化された属性を正常に同期します。(バグ 1167693)

### 1.3.1.7 アプリケーションスキーマをクエリしないドライバの機能

Identity Manager では、新しい ECV 変数「Retrieve Application Schema」が導入されました。この変数が False に設定されている場合、この情報を提供できない接続システムからドライバがスキーマを取得しようとするのを防止することができます。デフォルト値は True です。(バグ 1065074 およびバグ 1167181)

### 1.3.1.8 32 ビットリモートローダを 4.8.1 バージョンに手動でアップグレードする機能

リモートローダの 32 ビット RPM は、ユーザがリモートローダバージョンを 4.8.1 に手動でアップグレードできるように変更されています。(バグ 1162664)

### 1.3.1.9 発行者チャンネルのイベントを正常に同期する機能

発行者チャンネルのポリシーは、dirxml.engine.optimize-modify-merge が True に設定される場合には、イベントを正常に同期するように拡張されています。(バグ 1164320)

### 1.3.1.10 パスワードが Active Directory で変更された場合に eDirectory パスワードを正常に同期する機能

ユーザが Active Directory でパスワードを変更した場合に、パスワードの変更が eDirectory に正常に同期されます。(バグ 1147067)

## 1.3.2 Identity Reporting

NetIQ Identity Manager には、Identity Reporting における以前のいくつかの問題を解決する次のソフトウェアの修正が含まれています。

### 1.3.2.1 Identity Reporting データベースは複数值属性をサポートする

Identity Reporting データベーススキーマは、複数值属性をサポートするように拡張されています。また、属性のサイズが大きくなり、大きな複数值データを指定できるようになりました。(バグ 1159453)

### 1.3.2.2 アイデンティティポルトオブジェクトを Identity Reporting データベースに正常に同期する機能

データ収集サービスドライバを使用してアイデンティティポルトオブジェクトを Identity Reporting データベースに同期しようとする、NULL ポインタ例外が報告されません。代わりに、関連付けが存在しないことを示す警告メッセージが catalina.out ファイルで報告されます。(バグ 1138113)

### 1.3.2.3 データベース統計レポートのテーブルサイズを正常に計算する機能

Identity Reporting データベース統計レポートが正しい値を表示するように更新されました。(バグ 1149805)

### 1.3.2.4 データクリーンアップ要求が失敗する場合に Identity Reporting で正しい例外メッセージが表示される

データクリーンアップ要求が失敗する場合、Identity Reporting では、catalina.out ファイルに適切なエラーメッセージが記録されるようになりました。(バグ 1132858)

## 1.3.3 識別情報アプリケーション

NetIQ Identity Manager には、Identity Applications における以前のいくつかの問題を解決する次のソフトウェアの修正が含まれています。

### 1.3.3.1 データグリッドコンポーネントが、ワークフローで定義されたデータ項目マッピングからの入力を受諾する

フォームの設計時に、データグリッドコンポーネントが、ワークフローで定義されているデータ項目マッピングからの入力をフェッチできるようになりました。(バグ 1160440)

### 1.3.3.2 エンティティで詳細検索を実行中に DAL から属性をフェッチする機能

エンティティページの詳細検索機能が拡張され、DAL で設定された属性を検索できるようになりました。(バグ 1134434)

### 1.3.3.3 Identity Applications キャッシングメカニズムの自動更新

Identity Applications では、DirectoryService.GroupCacheHolder フィールドで設定された値に従って、そのキャッシュを自動的に更新できるようになりました。(バグ 1161144)

### 1.3.3.4 LDAP 設定の変更後に適切なコンテナの下にリソースを作成する機能

LDAP 設定が ism-configuration-properties ファイルで変更された場合、リソースが選択したサブコンテナの下に作成されます。LDAP 設定は大文字小文字の区別がなくなりました。(バグ 139202)



### 1.3.3.5 Form Builder で選択コンポーネントの値を正常に選択および選択解除する機能

拡張された Form Builder では、選択コンポーネントの使用時に選択を正常に変更できます。(バグ 1157551)

### 1.3.3.6 フォームが Form Builder を使用してロードされる場合にすべてのタブのコンテンツを入力する機能

Form Builder はフォームをロードするときにすべてのコンテンツを自動的に入力するように拡張されました。複数のタブ間を切り替えると、他のタブで以前に保存された値が保持されます。(バグ 1160680)

### 1.3.3.7 要求履歴ページに正しい結果が表示される

Identity Manager ダッシュボードの要求履歴ページでページング機能が拡張されました。すべてのページで正しい結果が表示されるようになりました。(バグ 1136813)

### 1.3.3.8 Internet Explorer での検索結果をクリアする機能

Identity Manager ダッシュボードでは、Internet Explorer での検索結果を正常にクリアできるようになりました。(バグ 1124682)

### 1.3.3.9 Java LDAP 読み込みタイムアウト制御のサポート

Identity Applications では、定義されたタイムライン内でドライバを正常に更新できるように LDAP 読み込みタイムアウト制御をサポートするようになりました。LDAP 制御を介して、引き続きソケットタイムアウトを使用できます。(バグ 616347)

### 1.3.3.10 SoD を識別し、グループまたはコンテナレベルで役割の競合を表示する機能

Identity Applications では、SoD を識別し、グループまたはコンテナレベルで競合する役割を検出して、競合の詳細を一覧表示できるようになりました。(バグ 1136231)

### 1.3.3.11 委任割り当ての作成で CN を使用してユーザを検索する機能

Identity Applications が拡張され、チームマネージャが検索条件として CN を使用して、委任割り当てのユーザを一覧表示できるようになりました。(バグ 1134624)

### 1.3.3.12 PRD 承認フォームにはロケールに従って情報が表示される

承認フォームのすべての情報がマイプロファイルの選択したロケールに従ってレンダリングされます。(バグ 1164829)

### 1.3.3.13 ログインの有効期限属性を正しく表示する機能

要求フォームに設定された日と日付フィールドがログインの有効期限属性として正しく取得されません。(バグ 1159475)

### 1.3.3.14 要求履歴ページでチームマネージャが他のユーザを表示可能

要求履歴ページで、チームマネージャがチームのすべてのメンバーとその要求履歴を表示できるようになりました。(バグ 1098011)

### 1.3.3.15 エンティティ検索ページの CSV にエクスポートボタンの制限されたビュー

エンティティ検索ページには、次のユーザに対してのみ CSV にエクスポートボタンが表示されず：(バグ 1132616)

- ◆ セキュリティ管理者
- ◆ プロビジョニング管理者

### 1.3.3.16 役割要求アクティビティの日付を正常に設定する機能

役割要求アクティビティの有効開始日と終了日がワークフローで正常に設定されます。(バグ 1159959 およびバグ 1165248)

### 1.3.3.17 ネストされたグループを持つアプリケーション項目に許可を割り当てる機能

Identity Applications では、アプリケーションページで、ネストされたグループメンバーとして定義された許可を割り当ててアクセスできるようになりました。(バグ 1139091)

### 1.3.3.18 Identity Manager ダッシュボードで最初のログイン時にボタンが正しく表示される

ブラウザキャッシュをクリアすると、最初のログイン後、および後続のログインについても、ダッシュボードボタンが正しく表示されます。(バグ 1143947)

### 1.3.3.19 128 文字の長さを超える CN でリソースを正常に作成する機能

Identity Applications が拡張され、リソース名で 128 文字のサイズ制限が削除されました。このリソースで導入された新しい CN フィールドは最大 64 文字を受諾します。(バグ 1123604)

### 1.3.3.20 ワークフロープラグインが正常に実行される

ワークフロープラグインは例外が発生することなくすべてのプロセスを実行し、選択したプロセスを正常に終了できます。(バグ 1166475)

### 1.3.3.21 Form Builder で選択ボックスの値を正常に選択および表示する機能

Form Builder では、Calculated Value フィールドを確認し、選択ボックスの値を正常に選択することができます。(バグ 1165283)

### 1.3.3.22 プロファイルページの属性の表示順を整理する機能

Identity Manager ダッシュボードでは、属性の順序を調整し、プロフィールページに同じ順序を表示できるようにします。(バグ 1115738)

### 1.3.3.23 1 つの役割の目的の役割カテゴリを正常に削除する機能

Identity Applications が更新され、1 つの役割に割り当てられた複数の役割カテゴリから選択した役割カテゴリのみを削除できるようになりました。(バグ 1118357)

### 1.3.3.24 ワークフローにスクリプトを含めると、フォームが正しくロードされる

Form Builder では、ワークフローにスクリプトを含めると、フォームを正常にロードできます。(バグ 1162096)

### 1.3.3.25 Utils.get コールがすべてのパラメータに対する応答を表示する

拡張された Form Builder では、utils.get コールですべてのクエリパラメータに応答します。(バグ 1163075)

### 1.3.3.26 コンテンツコンポーネントはテキスト内のスペース文字をサポートする

拡張された Form Builder では、コンテンツフィールドにスペース文字を入力できます。(バグ 1157887)

### 1.3.3.27 日コンポーネントのカスタム検証を正常に実行する機能

Form Builder が更新され、日コンポーネントのカスタム検証が可能になりました。検証では、出力として無効なコメントが表示されます。(バグ 1158612)

### 1.3.3.28 動的エンティティコンポーネントに表示されるエントリをソートする機能

更新された Form Builder では、動的エンティティの属性と順序に基づいて、エントリをソートできます。(バグ 1161744)

### 1.3.3.29 Form Builder ではフォーム統合に適用されないすべてのオプションを隠す

拡張された Form Builder には、フォーム統合に不要なコンポーネントは含まれていません。(バグ 1165217)

### 1.3.3.30 Form Builder でトリガーされたボタンアクションの値に設定されたテキストフィールドは編集可能

NetIQ Form Builder が拡張され、タスク完了後にテキストフィールドを編集できるようになりました。(バグ 1159361)

### 1.3.3.31 フォームレンダリングで複数の選択コンポーネント値を含むフォームを正常にロードする機能

要求フォームで複数の選択コンポーネント値を使用する場合、使用可能な値と選択された値のリストが正しく表示されます。また、選択した複数の値を含むフォーム送信が正常に実行されます。(バグ 1157560)

### 1.3.3.32 データグリッドからのデフォルト値行を削除した後でデータグリッドフィールドを編集する機能

拡張された Form Builder では、グリッド行を削除しても、データグリッドフィールドを編集できます。(バグ 1157673)

### 1.3.3.33 選択コンポーネントの選択の値が正しく表示される

カスタムデフォルト値を含む選択コンポーネントがドロップダウンの選択に対して正しい値を取得します。(バグ 1162749)

### 1.3.3.34 データグリッドコンポーネントがワークフローからのデータ項目マッピングから入力を正常にフェッチする

Form Builder の拡張されたバージョンでは、PRD で定義されたデータ項目マッピングフィールドからデータグリッドコンポーネントの値を正常にフェッチし、フォームレンダラページにこれらの値をレンダリングします。(バグ 1160440)

## 1.3.4 Designer

NetIQ Identity Manager には、Designer における以前のいくつかの問題を解決する次のソフトウェアの修正が含まれています。

### 1.3.4.1 Designer でローカライゼーションウィンドウ内のロケールのスクロールとアクセスが可能

Designer では、設定されているロケールが 28 を超える場合にロケールのリストをスクロールして表示できるようになりました。(バグ 1146694)

#### 1.3.4.2 Designer での展開、比較、インポート操作で正しい結果が表示される

Designer が拡張され、ドライバでインポート、展開、または比較操作を実行する場合に正しい結果が表示されます。(バグ 1139935)

#### 1.3.4.3 objectClasses が attributeTypes の前に一覧表示されている場合に LDIF からスキーマをインポートする機能

Designer では、オブジェクトクラスが属性の前にインポートされる場合に、LDIF ファイルからスキーマを正しくインポートできるようになりました。(バグ 1133716)

#### 1.3.4.4 Designer パッケージの新しいバージョンを作成する機能

クエリを含む新しい UA Designer パッケージが UA ドライバに正常にインストールされ、他のバージョンの Designer パッケージを作成できるようになります。(バグ 1134440)

#### 1.3.4.5 接続を確立し、Designer を正常に再接続する機能

Designer では、サーバ固有の接続を再接続して更新し、展開操作と比較操作を正常に実行できるようになります。(バグ 1104056、バグ 1100414、およびバグ 1101051)

#### 1.3.4.6 Designer で基本認証を使用してパッケージの更新を正常に起動する

Designer では資格情報を使用してパッケージの更新を起動できるようになりました。(バグ 1158129)

#### 1.3.4.7 ポリシービルダで役割オブジェクトをブラウズして選択する機能

ポリシービルダでは、モデルブラウザにプロビジョニングオブジェクトを一覧表示し、役割オブジェクトをブラウズできるようになりました。(バグ 1158024)

#### 1.3.4.8 カウンタ開始オプションは、整数値のみを受諾する

カウンタ開始オプションは、カウンタを開始する整数で表されます。(バグ 1133462)

#### 1.3.4.9 Designer でフィルタリソースが正常に同期される

エディタの更新されたフィルタリソースでは、開いているパッケージデザイナーにすべての変更を正常に同期します。(バグ 1159358)

#### 1.3.4.10 プロジェクトの Designer への直接インポートは最大のディスクスペースを使用する

Designer のプロジェクトインポート機能が拡張され、ディスクスペースが効率的に利用できるようになりました。(バグ 1127263)

#### 1.3.4.11 ユーザアプリケーションドライバパッケージを正常にアップグレードする機能

ユーザアプリケーションドライバパッケージはタイムアウト接続や例外なしに正常にアップグレードされます。(バグ 1148852)

#### 1.3.4.12 エディタでアウトラインビューにポリシーまたはマッピングテーブルが正しく表示される

アウトラインビューでポリシーまたは他のオブジェクトを開く場合、エディタにポリシーが正常に表示されます。(バグ 1161006)

#### 1.3.4.13 Linux プラットフォームで Form Builder を正常に起動する機能

Designer は、実行権限を必要なファイルに正しく設定して Form Builder を正常にロードします。  
(バグ 1161006)

#### 1.3.4.14 Designer がポリシーエディタまたは Modeler エディタでメモリリークを正常に処理する

Designer がエディタでメモリリークを正常に処理し、Designer のパフォーマンスを向上させます。  
(バグ 1166193)

#### 1.3.4.15 アンダースコアのあるパッケージ名、または .DS\_Store ファイルのある MacOS のパッケージフォルダにもかかわらず、Designer を正常に起動する

Designer が拡張され、パッケージフォルダの .DS\_Store ファイルを処理し、パッケージ名に特殊文字を使用できるようになりました。(バグ 1161892)

#### 1.3.4.16 初期プロンプト設定が任意のドライバに対して設定されている場合に、パッケージのアップグレードまたはダウングレード後にデフォルトの設定値が表示される

Designer では、パッケージのアップグレードまたはダウングレード時に初期プロンプト設定にデフォルトの設定値が表示されるようになりました。(バグ 1141877)

#### 1.3.4.17 「\$var\$text」構文を含むローカル変数でハイフンを使用できる

ローカル変数の設定中にテキストフィールドにハイフンを含めるように構文が更新されました。(バグ 1155211)

#### 1.3.4.18 Enterprise Palette の更新された Blackboard ドライバ

既存の Blackboard ドライバが新しい BlackboardREST ドライバに置き換えられました。また、ドライバの更新には新しい Shim ID が含まれています。(バグ 1169592)

#### 1.3.4.19 Contained Role (含まれる役割) フィールドを使用して役割を正常にインポートする機能

更新された Designer では、CSV ファイルで定義された Contained Role (含まれる役割) フィールドを使用して役割を正常にインポートできます。(バグ 1132899)

#### 1.3.4.20 Designer は基本パッケージバージョン 4.5.1 以降を使用してユーザアプリケーションドライバを正常に展開する

Designer はユーザアプリケーションドライバを正常に展開し、役割設定に正しい属性値を表示します。(バグ 1143689)

#### 1.3.4.21 レガシフォームで使用可能なイベントを選択しても、既存のイベントは上書きされない

MAC 上の Designer は他のイベントを上書きせずに、レガシフォームでイベントを選択できます。  
(バグ 1143938)

#### 1.3.4.22 基本パッケージの依存ポリシーリンケージを正常に適用する機能

Designer が依存パッケージで定義されている基本パッケージの正しいリンケージを適用するように更新されました。(バグ 1150993)

#### 1.3.4.23 役割カタログにインポートまたは比較操作が選択されていない場合に正しい結果が表示される

[Importing/Comparing Role Catalog (役割カタログのインポート / 比較)] ウィンドウでオプションを選択すると、目的の結果が表示されます。(バグ 1151872)

#### 1.3.4.24 パッケージのアップグレードまたはダウングレードでドライバフィルタが正常に更新される

ドライバフィルタが拡張され、パッケージのアップグレードまたはダウングレード時に正常に更新されるようになりました。(バグ 1150991)

## 2 このサービスパックのインストールまたは更新

注: Identity Manager を 4.8.1 にアップグレードした後で、このバージョンの Identity Manager で使用可能な最新の Java アップデートにより、i5/OS および OS/400 (Midrange) ドライバが動作しなくなります。この問題を回避するには、以下のいずれかの操作を実行してください。

- ◆ [SSH トンネルを使用](#) (推奨)
- ◆ 古いバージョンの Identity Manager で続行
- ◆ ドライバから SSL 設定を削除 (非推奨)

[NetIQ ダウンロードページ](#)にログインして、ソフトウェアをダウンロードするリンクに従います。次のファイルがあります。

ファイル名	説明
Identity_Manager_4.8.1_Linux.iso	Linux プラットフォーム用の Identity Manager サーバ (Identity Manager エンジン、リモートローダ、ファンアウトエージェント、iManager)、Identity Applications、および Identity Reporting のファイルが含まれています。
Identity_Manager_4.8.1_Windows.iso	Windows プラットフォーム用の Identity Manager サーバ (Identity Manager エンジン、リモートローダ、ファンアウトエージェント、iManager)、Identity Applications、および Identity Reporting のファイルが含まれています。
Identity_Manager_4.8.1_Designer.zip	すべてのプラットフォーム用の Designer のファイルが含まれています。
SentinelLogManagementForIGA8.3.0 .Otar.gz	Sentinel Log Management for Identity Governance and Administration (IGA) ファイルが含まれています。

注: このインストールは Linux 上のみでサポートされています。

コンポーネントをアップグレードする順序の詳細については、[15 ページのセクション 2.2 「更新順」](#)を参照してください。

- ◆ [15 ページのセクション 2.1 「サポートされる更新パス」](#)
- ◆ [15 ページのセクション 2.2 「更新順」](#)
- ◆ [16 ページのセクション 2.3 「Linux および Windows での SSPR の更新に関する考慮事項」](#)
- ◆ [16 ページのセクション 2.4 「Linux での Identity Manager コンポーネントの更新」](#)
- ◆ [21 ページのセクション 2.5 「Windows での Identity Manager コンポーネントの更新」](#)
- ◆ [30 ページのセクション 2.6 「Designer の更新」](#)
- ◆ [31 ページのセクション 2.7 「Sentinel Log Management for IGA の更新」](#)

## 2.1 サポートされる更新パス

更新プロセスでは、Identity Manager のコンポーネントを特定の順序で更新する必要があります。

---

**注：** 現在 Identity Manager 4.7.4 以前のバージョンを使用している場合は、まずコンポーネントを 4.8 にアップグレードし、次の更新パスに従って、4.8.1 の更新を適用します。

---

ベースバージョン	更新バージョン
Identity Manager エンジン 4.8 または 4.8.0.1 と eDirectory 9.2 または 9.2.1	Identity Manager エンジン 4.8.1 と eDirectory 9.2.2
Identity Manager 4.8 とリモートローダ 4.8	Identity Manager 4.8 とリモートローダ 4.8.1 Identity Manager 4.8.1 とリモートローダ 4.8 Identity Manager 4.8.1 とリモートローダ 4.8.1
Identity Manager Designer 4.8 または 4.8.0.1	Identity Manager Designer 4.8.1
Identity Applications 4.8 または 4.8.0.1	Identity Applications 4.8.1
Identity Reporting 4.8	Identity Reporting 4.8.1
Identity Analyzer 4.8	Identity Analyzer 4.8
ファンアウトエージェント 1.2.2	ファンアウトエージェント 1.2.3
Sentinel Log Management for IGA 8.2.2	Sentinel Log Management for IGA 8.3.0

## 2.2 更新順

コンポーネントを更新する場合、次の順序で実行する必要があります。

1. 識別ポータル
2. Identity Manager エンジン

---

**注：** エンジンをアップグレードする前に eDirectory 9.2.2 をアップグレードしてください。

---

3. リモートローダ
4. ファンアウトエージェント
5. iManagerWeb 管理
6. Identity Applications (Advanced Edition 用)
7. Identity Reporting
8. Designer
9. Sentinel Log Management for IGA

---

**注：** Sentinel Log Management for IGA の更新は、バージョンが 8.3.0 ではない場合にのみ必要です

---

10. OSP (One SSO Provider)
11. Self-Service Password Reset (SSPR)

---

注: SSPR がリモートマシン上にインストールされている場合は、SSPR のスタンドアロンアップデートが必要です。

---

## 2.3 Linux および Windows での SSPR の更新に関する考慮事項

Linux および Windows プラットフォームで Identity Manager を 4.8.1 バージョンに更新する前に、次の考慮事項が Self Service Password Reset (SSPR) に適用されます。

- ◆ Syslog 出力形式タイプが CEF の SSPR サーバで監査が有効な場合、Sentinel Syslog サーバから NetIQ Self Service Password Reset コレクタをアンインストールする必要があります。アンインストールしない場合、Syslog サーバが SSPR 監査イベントを解析できません。
- ◆ SSPR はイベントの監査用に CEF と JSON 両方の出力形式タイプをサポートします。SSPR 4.5.0.0 では引き続き JSON 出力形式タイプの NetIQ Self Service Password Reset コレクタをサポートします。単一の Sentinel Syslog サーバに接続されている複数の SSPR サーバがある場合は、すべてのサーバ間でイベントを監査するために 1 つの形式タイプのみを選択する必要があります。

Identity Manager を 4.8.1 バージョンに更新すると、SSPR は CEF 形式タイプで監査イベントを収集するため、Universal CEF Collector を必要とする 4.5.0.0 バージョンにアップグレードされます。

---

注: 最初に CEF 出力形式タイプで SSPR 監査を有効にする場合は、NetIQ Self Service Password Reset コレクタが Sentinel Syslog サーバで設定されていないことを確認します。

---

## 2.4 Linux での Identity Manager コンポーネントの更新

このサービスパックには、Linux プラットフォームで Identity Manager コンポーネントを更新するための Identity\_Manager\_4.8.1\_Linux.iso ファイルが含まれています。

---

**重要:** (条件付き) 次のシナリオでは Identity Manager を 4.8.1 バージョンに更新する前に、Identity Applications 4.8.0.1 パッチを適用する必要があります。

- ◆ eDirectory 9.2 と Identity Applications 4.8 が同じサーバにインストールされている。
- ◆ iManager 3.2 と Identity Applications 4.8 が同じサーバにインストールされている。
- ◆ Identity Applications 4.8 と PostgreSQL が同じサーバにインストールされている。

Identity Applications 4.8.0.1 パッチは、NGINX モジュールと OpenSSL ライブラリ間の依存関係を解決します。パッチの適用手順については、『[NetIQ Identity Applications 4.8.0 Hotfix 1 Release Notes](#)』を参照してください。

Identity Applications 4.8.0.1 パッチを適用しない場合、アイデンティティポールの更新は失敗し、インストーラが次のエラーメッセージを報告します。



Problem: patterns-edirectory-9.2.2-6.x86\_64 requires netiq-openssl = 1.0.2u, but this requirement cannot be provided not installable providers: netiq-openssl-1.0.2u-32.x86\_64[edirectory-9.2.2]

Solution 1: deinstallation of netiq-nginx-1.14.2-1.x86\_64

Solution 2: do not install patterns-edirectory-9.2.2-6.x86\_64

Solution 3: break patterns-edirectory-9.2.2-6.x86\_64 by ignoring some of its dependencies

---

- ◆ 17 ページのセクション 2.4.1 「アイデンティティボールの更新」
- ◆ 17 ページのセクション 2.4.2 「Identity Manager コンポーネントの更新」
- ◆ 19 ページのセクション 2.4.3 「root 以外の更新の実行」
- ◆ 19 ページのセクション 2.4.4 「更新後のタスク」
- ◆ 20 ページのセクション 2.4.5 「SSPR のスタンドアロンアップデートの実行」
- ◆ 20 ページのセクション 2.4.6 「PostgreSQL の更新」

## 2.4.1 アイデンティティボールの更新

- 1 [ダウンロードサイト](#)から、Identity\_Manager\_4.8.1\_Linux.iso ファイルをダウンロードしてマウントします。
- 2 <ISO mounted location>/IDVault/setup ディレクトリに移動します。
- 3 次のコマンドを実行します。

```
./nds-install
```

## 2.4.2 Identity Manager コンポーネントの更新

次のコンポーネントは、対話操作で更新できるほか、サイレントアップデートも可能です。

- ◆ Identity Manager エンジン
- ◆ Identity Manager リモートローダサービス

---

**注:** リモートローダを更新する前に、次のコンポーネントが停止されていることを確認します。

- ◆ リモートローダインスタンス
- ◆ リモートローダで実行中のドライバインスタンス
- ◆ 識別ボールド

- 
- ◆ Identity Manager 展開エージェント
  - ◆ iManager Web 管理
  - ◆ 識別情報アプリケーション
  - ◆ Identity Reporting

### 対話操作での更新

- 1 [ダウンロードサイト](#)から、Identity\_Manager\_4.8.1\_Linux.iso ファイルをダウンロードしてマウントします。
- 2 <ISO mounted location> に移動し、次のコマンドを実行します。

```
./install.sh
```

- 3 [Y] を選択し、使用可能なコンポーネントのリストから更新するコンポーネントを選択します。

---

注：更新できるコンポーネントは一度に 1 つだけです。

---

- 4 (条件付き) Identity Applications および Identity Reporting コンポーネントにカスタマイズを適用している場合は、カスタマイズを復元して、Tomcat サービスを再起動します。
- 5 Identity Manager コンポーネントを起動するには、次のコマンドを実行します。
  - ◆ リモートローダ： `rdxml -config filename -sp`
  - ◆ ファンアウトエージェント： `startAgent -config <FanoutAgent Installation Location>/config/fanoutagentconfig.properties`
  - ◆ 識別情報アプリケーション： `systemctl start netiq-tomcat.service`
  - ◆ Identity Reporting: `systemctl start netiq-tomcat.service`

## サイレントアップデート

抽出したディレクトリから `silent.properties` ファイルを見つけ、必要なコンポーネントを更新するようにファイルを変更します。

- ◆ アイデンティティポールトを更新するには、常に `IDVAULT_SKIP_UPDATE=false` を設定します
- ◆ エンジンを更新するには、`INSTALL_ENGINE=true` を設定します
- ◆ リモートローダを更新するには、`INSTALL_RL=true` を設定します
- ◆ ファンアウトエージェントを更新するには、`INSTALL_FOA=true` を設定します
- ◆ iManager を更新するには、`INSTALL_IMAN=true` を設定します
- ◆ Identity Reporting を更新するには、`INSTALL_REPORTING=true` を設定します
- ◆ Identity Applications を更新するには、`INSTALL_UA=true` を設定します

---

## 注

- ◆ 一度に 1 つのコンポーネントに対してのみ値を `true` に設定する必要があります。
  - ◆ アイデンティティポールト以外のコンポーネントを更新する場合は、アイデンティティポールトの更新をスキップするため、必ず `IDVAULT_SKIP_UPDATE` の値を `true` に設定する必要があります。
  - ◆ iManager を更新する際には、iManager プラグイン (ある場合) が自動的に更新されます。
- 

コンポーネントをサイレントに更新するには、次のアクションを実行します。

- 1 [ダウンロードサイト](#) から、`Identity_Manager_4.8.1_Linux.iso` ファイルをダウンロードしてマウントします。
- 2 `<ISO mounted location>` ディレクトリに移動します。
- 3 次のコマンドを実行します。

```
./install.sh -s -f silent.properties
```
- 4 (条件付き) Identity Applications および Identity Reporting コンポーネントにカスタマイズを適用している場合は、カスタマイズを復元して、Tomcat サービスを再起動します。

5 Identity Manager コンポーネントを起動するには、次のコマンドを実行します。

- ◆ リモートローダ: `rdxml -config filename -sp`
- ◆ ファンアウトエージェント: `startAgent -config <FanoutAgent Installation Location>/config/fanoutagentconfig.properties`
- ◆ 識別情報アプリケーション: `systemctl start netiq-tomcat.service`
- ◆ Identity Reporting: `systemctl start netiq-tomcat.service`

### 2.4.3 root 以外の更新の実行

このアクションは、Identity Manager エンジンを root 以外のユーザとしてインストールした場合にのみ実行してください。

1 Identity\_Manager\_4.8.1\_Linux.iso をマウントした場所から次のコマンドを実行します。

```
./install.sh
```

2 [Identity Manager エンジン] を選択し、<Enter> キーを押します。

3 アイデンティティポールの root 以外のインストール場所を指定します。

たとえば、`/home/user/eDirectory` です。

4 [y] を指定して、更新を完了します。

### 2.4.4 更新後のタスク

サービスパックを適用した後で、次のアクションを実行します。

#### 2.4.4.1 アイデンティティポールのスキーマの拡張

(オプション) このセクションは以下の場合に適用されます。

- ◆ ルートユーザまたはルート以外のユーザとして Identity Manager をインストールしている場合、および
- ◆ リソース重み付け機能用にアイデンティティポールのスキーマを拡張したい場合

アイデンティティポールのスキーマを拡張するには、次の手順を実行します。

1 アイデンティティポールのスキーマを拡張するサーバにログインします。

2 `/opt/novell/eDirectory/bin` ディレクトリに移動します。

3 以下のコマンドを実行して、スキーマを拡張します。

```
./idm-install-schema
```

4 アプリケーションドライバパッケージを 4.8.1.xxxxx バージョンに更新します。ここで、xxxxx はドライバパッケージが作成されたときのタイムスタンプを示します。

5 役割とリソースのサービスドライバを 4.8.1 バージョンに更新します。詳細については、『[NetIQ Identity Manager Role and Resource Service Driver 4.8.1 Readme](#)』を参照してください。

6 アイデンティティポールを再起動します。

#### 2.4.4.2 Identity Applications の更新後のチェック

Identity Applications を更新した後で、ブラウザのキャッシュを必ずクリアしてください。

## 2.4.5 SSPR のスタンドアロンアップデートの実行

注：

- ◆ SSPR の監査出力形式タイプが CEF の場合、SSPR を更新する前に、Sentinel Syslog サーバの NetIQ Self Service Password Reset コレクタを確実にアンインストールしてください。詳細については、「Linux および Windows での SSPR の更新に関する考慮事項」を参照してください。
- ◆ SSPR が次の場合はこの方法を使用してください：
  - ◆ Identity Applications サーバ以外のサーバにインストールされている。
  - ◆ Standard Edition でインストールされている。

SSPR を更新するには、次の手順を実行します。

- 1 Identity\_Manager\_4.8.1\_Linux.iso ファイルをダウンロードしてマウントします。
- 2 <ISO mounted location>/sspr ディレクトリに移動します。
- 3 次のコマンドを実行します。

```
./install.sh
```

## 2.4.6 PostgreSQL の更新

(条件付き) データベースとして PostgreSQL を使用している場合、このサービスパックでは、既存の PostgreSQL データベースバージョンを 12.2 に更新する必要があります。

注：

- ◆ PostgreSQL 12.2 によって提供されるデフォルトの機能のほか、このサービスパックでは SSL (FIPS で構築された OpenSSL 1.0.2u) を使用して PostgreSQL データベースを設定できます。このサービスパックには、PostgreSQL Contrib パッケージもバンドルされています。

- 1 [ダウンロードサイト](#) から、Identity\_Manager\_4.8.1\_Linux.iso ファイルをダウンロードしてマウントします。
- 2 <ISO mounted location>/common/scripts ディレクトリに移動し、pg-upgrade.sh スクリプトを実行します。

注：既存のディレクトリ以外のディレクトリを指定するには、SPECIFY\_NEW\_PG\_DATA\_DIR=true ./pg-upgrade.sh コマンドを実行します。

アップグレードスクリプトは、次のアクションを実行します。

- ◆ 既存の postgres のバックアップを別のフォルダに取ります。たとえば、/opt/netiq/idm/postgres から /opt/netiq/idm/postgres-<timestamp>-backup に。
  - ◆ 既存の Postgres ディレクトリを更新します。たとえば、/opt/netiq/idm/postgres。
- 3 以下の詳細を指定して、インストールを完了します。

**既存の Postgres インストール場所：** PostgreSQL がインストールされる場所を指定します。たとえば、/opt/netiq/idm/postgres。

**既存の Postgres データディレクトリ：** 既存の PostgreSQL データディレクトリの場所を指定します。たとえば、/opt/netiq/idm/postgres/data を指定します。

既存の Postgres データベースパスワード : PostgreSQL パスワードを指定します。

新しい Postgres データディレクトリ [/opt/netiq/idm/postgres12.2/data] を入力します。

PostgreSQL データディレクトリの場所を指定します。既存のディレクトリ以外の別のディレクトリを指定することを選択している場合にこのプロンプトが表示されます。

## 2.5 Windows での Identity Manager コンポーネントの更新

このサービスパックには、Windows プラットフォームで Identity Manager コンポーネントを更新するための Identity\_Manager\_4.8.1\_Windows.iso ファイルが含まれています。

---

**注 :** Identity Manager エンジンが Identity Applications または Identity Reporting と同じサーバにインストールされている場合は、Identity Applications または Identity Reporting の更新プロセスがアイデンティティポータル (eDirectory) サービスを再起動します。

---

- ◆ [21 ページのセクション 2.5.1 「アイデンティティポールの更新」](#)
- ◆ [22 ページのセクション 2.5.2 「Identity Manager エンジンとリモートローダの更新」](#)
- ◆ [23 ページのセクション 2.5.3 「ファンアウトエージェントの更新」](#)
- ◆ [23 ページのセクション 2.5.4 「iManager の更新」](#)
- ◆ [24 ページのセクション 2.5.5 「Identity Applications の更新」](#)
- ◆ [25 ページのセクション 2.5.6 「Identity Reporting の更新」](#)
- ◆ [26 ページのセクション 2.5.7 「更新後のタスク」](#)
- ◆ [27 ページのセクション 2.5.8 「PostgreSQL データベースの更新」](#)

### 2.5.1 アイデンティティポールの更新

- 1 Identity\_Manager\_4.8.1\_Windows.iso ファイルをダウンロードしてマウントします。
- 2 <ISO mounted location>\IdentityManagerServer\Directory ディレクトリに移動して、eDirectory\_922\_Windows\_x86\_64.exe ファイルを実行します。

---

**注 :** アイデンティティポータル更新プロセスにより、アイデンティティポータル (eDirectory) サーバが再起動します。

---

#### ツリー名

アイデンティティポールのツリー名を確認します。

#### Server FDN (サーバ FDN)

サーバ FDN を確認します。

#### Tree Admin (ツリー管理者)

NCP またはドット形式でアイデンティティポールの管理者名を指定します。

#### 管理者パスワード

管理者パスワードを指定します。

- 3 **[インストール場所]** フィールドで、アイデンティティポータルがインストールされる場所を確認します。
- 4 **[DIB Location (DIB の場所)]** フィールドで、DIB ファイルが配置される場所を確認します。

- 5 [NICI] チェックボックスを選択します。
- 6 [アップグレード] をクリックします。

## 2.5.2 Identity Manager エンジンとリモートローダの更新

- 1 Identity\_Manager\_4.8.1\_Windows.iso ファイルをダウンロードしてマウントします。
- 2 アイデンティティポルトとリモートローダのインスタンスを停止します。
  - 2a すべてのリモートローダインスタンスを停止します。
  - 2b リモートローダコンソールを閉じます。
  - 2c すべてのドライバを停止します。
  - 2d アイデンティティポルトを停止します。
- 3 <ISO mounted location>\IdentityManagerServer\IDM ディレクトリに移動します。
- 4 対話モードまたはサイレントモードのインストールで更新をインストールします。
  - ◆ **対話モードの場合** : install.bat ファイルを実行して、リストから更新するコンポーネントを選択します。

Identity Manager エンジンを更新するには、[Metadirectory Engine] を選択します。

32 ビットリモートローダを更新するには、[32-Bit Remote Loader Service] を選択します。

64 ビットリモートローダを更新するには、[64-Bit Remote Loader Service] を選択します。

.NET リモートローダを更新するには、[.NET Remote Loader Service] を選択します。
  - ◆ **サイレントモードの場合** : patchUpgradeSilent.Properties ファイルを見つけ、必要なコンポーネントを更新するようにこのファイルを変更します。

エンジン (root および root 以外) を更新するには、[install\_Engine=true] を設定します。

32 ビットリモートローダを更新するには、[install\_RL32=true] を設定します。

64 ビットリモートローダを更新するには、[install\_RL64=true] を設定します。

.Net リモートローダを更新するには、[install\_DotNetRL=true] を設定します。

コマンドプロンプトで、install.bat -i silent -f patchUpgradeSilent.Properties を実行します。
- 5 (条件付き) カスタムの信頼されたルート証明書を既存の Java キーストア (C:\NetIQ\idm\jre\lib\security\cacerts) に追加した場合、証明書を新しいキーストアにインポートします。

```
keytool -importkeystore -srckeystore <Old-cacerts> -destkeystore  
C:\NetIQ\idm\jre\lib\security\cacerts -srcstoretype JKS -deststoretype JKS -  
srcstorepass <storePassword> -deststorepass changeit -srcalias <mycertAlias>
```

作成されたカスタム証明書ごとにこのコマンドを実行します。または、キーストアを新しい場所にコピーします。

たとえば、古い cacerts ファイルは Windows の次の場所にバックアップされます。

- ◆ \backup location\cacerts.32 from 32-bit JRE
- ◆ \backup location\cacerts.64 from 64-bit JRE

## 2.5.3 ファンアウトエージェントの更新

---

**重要:** 更新プログラムは、ご使用のコンピュータにすでにインストールされているファンアウトエージェントを検出しません。したがって、このコンポーネントを更新するオプションは提供されていません。

---

- 1 C:\NetIQ\IdentityManager\FanoutAgent\lib フォルダに移動して、次のファイルのバックアップを取ります。
  - ◆ IDMCEFFProcessor.jar
  - ◆ activemq-all-\*.jar
  - ◆ dirxml.jar
  - ◆ dirxml\_misc.jar
  - ◆ dirxml\_remote.jar
  - ◆ fanout\_web.war
  - ◆ nxsl.jar
  - ◆ zoomdb.jar
- 2 C:\NetIQ\IDM\FanoutAgent\bin に移動し、zoomdb.dll と startAgent.bat ファイルのバックアップを取ります。
- 3 Identity\_Manager\_4.8.1\_Windows.iso ファイルをダウンロードしてマウントします。
- 4 <ISO mounted location>\IdentityManagerServer\IDM\patch\Windows\FanoutAgent\lib の場所に移動して、次のファイルをコピーします。
  - ◆ IDMCEFFProcessor.jar
  - ◆ activemq-all-\*.jar
  - ◆ dirxml.jar
  - ◆ dirxml\_misc.jar
  - ◆ dirxml\_remote.jar
  - ◆ fanout\_web.war
  - ◆ nxsl.jar
  - ◆ zoomdb.jar
- 5 C:\NetIQ\IdentityManager\FanoutAgent\lib フォルダ内の既存のファイルを**ステップ 4** でコピーされたファイルで置き換えます。最新の JDBC ドライバを使用します。
- 6 <ISO mounted location>\IdentityManagerServer\IDM\patch\Windows\FanoutAgent\bin の場所に移動し、zoomdb.dll と startAgent.bat ファイルをコピーします。
- 7 C:\NetIQ\IdentityManager\FanoutAgent\bin フォルダ内の zoomdb.dll と startAgent.bat ファイルを**ステップ 6** でコピーしたファイルで置き換えます。
- 8 ファンアウトエージェントを再起動します。

## 2.5.4 iManager の更新

- 1 iManager をアップグレードするコンピュータに管理特権を持つユーザとしてログインします。
- 2 アップグレードを実行する前に、server.xml と context.xml 設定ファイルのバックアップを別の場所に取ります。

アップグレードプロセスはこれらの設定ファイルを置き換えます。

- 3 Identity\_Manager\_4.8.1\_Windows.iso ファイルをダウンロードしてマウントします。
- 4 <ISO mounted location>\IdentityManagerServer\iManager\installs\win ディレクトリに移動し、iManagerInstall.exe を実行します。
- 5 インストールで使用する言語を選択し、[OK] をクリックします。
- 6 [イントロダクション] ページで、[次へ] をクリックします。
- 7 使用許諾契約書の条項を確認して同意し、[次へ] をクリックします。
- 8 (条件付き) iManager サーバのセットアッププログラムが古いバージョンの iManager がインストールされていることを検出した場合、インストールされているバージョンをアップグレードするように要求するメッセージが表示される可能性があります。[はい] をクリックしてアップグレードします。プログラムが既存の JRE および Tomcat バージョンを最新バージョンに置き換えます。また、iManager が最新バージョンにアップグレードされます。
- 9 [Detection Summary (検出の概要)] ウィンドウを確認し、[次へ] をクリックします。  
[[Detection Summary (検出の概要)]] ウィンドウには、iManager がアップグレードされた後に使用するサーブレットコンテナおよび JVM ソフトウェアの最新バージョンが表示されます。
- 10 使用する TLS 証明書の公開鍵アルゴリズムを次のオプションから選択します。
  - ◆ RSA
  - ◆ ECDSA 256
- 11 TLS 通信の暗号スイートを次のオプションから選択します。
  - ◆ なし
  - ◆ 低
  - ◆ 中
  - ◆ 高
- 12 (オプション) iManager で IPv6 アドレスを使用するには、[[Enable IPv6 (IPv6 を有効にする)]] ウィンドウで [[はい]] をクリックします。  
iManager のアップグレード後に IPv6 アドレスを有効にすることもできます。
- 13 [インストール前の概要] ページを確認して、[インストール] をクリックします。  
アップグレード処理には数分かかることがあります。このプロセスは、iManager コンポーネントの新しいファイルを追加したり、iManager 環境設定を変更したりします。
- 14 [完了] をクリックします。

---

注 : iManager の更新の後で、既存のプラグインを更新する必要があります。詳細については、[27 ページの「iManager の更新後の手順」](#)を参照してください。

---

## 2.5.5 Identity Applications の更新

(条件付き) C:\NetIQ\IDM\apps\tomcat\logs ディレクトリから既存のログを削除するか、バックアップを取ります。

- 1 Identity\_Manager\_4.8.1\_Windows.iso ファイルをダウンロードしてマウントします。
- 2 <ISO mounted location>\IdentityApplications ディレクトリに移動します。
- 3 次のいずれかの操作を実行します。



**GUI:** install.exe

**サイレント:** コマンドプロンプトで、<ISO mounted location>\IdentityApplications の場所に移動し、install.exe -i silent を実行します。

Identity Applications 更新プログラムはユーザアプリケーション、OSP、SSPR、Tomcat、および JRE を更新します。

- 4 GUI の場合、[イントロダクション] ページで、[次へ] をクリックします。
- 5 [Deployed Applications-( 導入したアプリケーション)] ページを確認して、[次へ] をクリックします。  
このページでは、現在インストールされているコンポーネントとそのバージョンを一覧表示します。
- 6 [Available Patches-( 使用可能なパッチ)] ページで、[次へ] をクリックします。  
このページには、インストールされたコンポーネントで使用可能な更新が一覧表示されます。
- 7 [Pre-Install Summary-( インストール前の概要)] ページでインストールに必要なディスク容量と使用可能なディスク容量を確認し、[インストール] をクリックします。  
インストールプロセスが完了するまでしばらく時間がかかる場合があります。  
サービスパックを適用する前に、インストールプロセスは Tomcat サービスを自動的に停止します。  
このプロセスは、インストールされたコンポーネントの現在の設定のバックアップも作成します。  
インストールで何らかの警告やエラーが報告される場合は、Service Pack Installation/ Logs ディレクトリにあるログを参照してください。  
例: C:\NetIQ\IDM\apps\Identity\_Apps\_4.8.1.0\_Install\Logs。問題を修復し、Tomcat サービスを手動で再起動する必要があります。
- 8 Tomcat サービスを開始します。
- 9 ( オプション ) サービスパックが正常に適用されていることを確認するには、アップグレードされたコンポーネントを起動し、コンポーネントのバージョンをチェックします。
- 10 Identity Applications にアクセスする前に、ブラウザのキャッシュをクリアします。

---

**注:** 設定更新ユーティリティの設定を変更するには、<install\_directory>\apps\configupdate ディレクトリから configupdate.bat を起動します。

---

## 2.5.6 Identity Reporting の更新

( 条件付き ) C:\NetIQ\IDM\apps\tomcat\logs ディレクトリから既存のログを削除するか、バックアップを取ります。

- 1 Identity\_Manager\_4.8.1\_Windows.iso ファイルをダウンロードしてマウントします。
- 2 <ISO mounted location>\IdentityReporting ディレクトリに移動します。
- 3 次の手順を実行します。  
「サイレント」: コマンドプロンプトで <ISO mounted location>\IdentityReporting の場所に移動し、install.exe -i silent を実行します  
「GUI」: IdentityReporting ディレクトリで、install.exe をダブルクリックします
- 4 GUI の場合、[イントロダクション] ページで、[次へ] をクリックします。

- 5 [Deployed Applications-( 導入したアプリケーション)] ページを確認して、[次へ] をクリックします。  
このページでは、現在インストールされているコンポーネントとそのバージョンを一覧表示します。
- 6 [Available Updates-( 使用可能な更新)] ページで、[次へ] をクリックします。  
このページには、インストールされたコンポーネントで使用可能な更新が一覧表示されます。
- 7 [インストール前の概要] ページで、[インストール] をクリックします。
- 8 Tomcat サービスを開始します。
- 9 Identity Reporting にアクセスする前に、ブラウザのキャッシュをクリアします。

---

注：設定更新ユーティリティの設定を変更するには、<install\_directory>\apps\configupdate ディレクトリから configupdate.bat を起動します。

---

## 2.5.7 更新後のタスク

このサービスパックを適用した後で、次のアクションを実行します。

### 2.5.7.1 アイデンティティボールドスキーマの拡張

(オプション) このセクションは、リソース重み付け機能用にアイデンティティボールドスキーマを拡張したい場合に適用されます。

アイデンティティボールドスキーマを拡張するには、次の手順を実行します。

- 1 アイデンティティボールドスキーマを拡張するサーバにログインします。
- 2 目的のディレクトリに新しいファイルを作成します。  
たとえば、C:\Temp ディレクトリに nrf-extensions.sch ファイルを作成します。
- 3 nrf-extensions.sch ファイルを開いて、次のコンテンツを追加します。

```
--
-- The nrfResourceWeightage attribute contained by nrfResource object class
-- specifies the weightage of
-- resource object which is used for assignment/revocation based on priority
--
NDSSchemaExtensions DEFINITIONS ::=
BEGIN
"nrfResourceWeightage" ATTRIBUTE ::=
{
    Operation                ADD,
    Flags                     {DS_SYNC_IMMEDIATE,
DS_SINGLE_VALUED_ATTR},
    SyntaxID                  SYN_INTEGER,
    ASN1ObjID                 {2 16 840 1 113719 1 33 4 174}
}

"nrfResource" OBJECT-CLASS ::=
{
    Operation    MODIFY,
    MayContain   {"nrfResourceWeightage"}
}
END
```

4 C:\NetIQ\Directory\ ディレクトリに移動します。

5 以下のコマンドを実行して、スキーマを拡張します。

```
ice -l <schema_update_log> -C -a -S SCH -f <file that you created in step 2> -D LDAP -s <eDirectory DNS name/IP> -p <LDAP port> -d <eDirectory_admin_dn> -w <eDirectory_admin_password>
```

ここで、

-C -a は宛先スキーマを更新します。

-f はスキーマファイル (sch) を示します。

-p は LDAP サーバのポート番号を示します。デフォルトポートは 389 です。セキュアな通信には、ポート 636 を使用します。セキュアな通信には、SSL 証明書が必要です。

-L は SSL 認証に使用するサーバキーが格納されている DER 形式のファイルを示します。

-s は LDAP サーバの DNS 名または IP アドレスを示します。

次に例を示します。

```
ice -l schemaupdate.log -C -a -S SCH -f C:\Temp\nrf-extensions.sch -D LDAP -s idmorg.com -p 636 -d cn=admin,ou=idm,o=microfocus -w password -L cert.der
```

6 ユーザーアプリケーションドライバパッケージを 4.8.1.xxxxx バージョンに更新します。ここで、xxxxx はドライバパッケージが作成されたときのタイムスタンプを示します。

7 役割とリソースのサービスドライバを 4.8.1 バージョンに更新します。詳細については、『[NetIQ Identity Manager Role and Resource Service Driver 4.8.1 Readme](#)』を参照してください。

8 アイデンティティボールドを再起動します。

### 2.5.7.2 iManager の更新後の手順

iManager をアップグレードした後で、インストールプロセスは既存のプラグインを更新しません。プラグインが正しい iManager バージョンに一致していることを確認します。

iManager から Identity Manager プラグインを更新するには、次のアクションを実行します。

1. iManager にログインします。
2. [環境設定] > [Plug-in Installation (プラグインのインストール)] > [Available NetIQ Plug-in Modules (利用できる NetIQ プラグインモジュール)] の順に移動します。
3. 4.8.1.0 用プラグインの更新
4. Tomcat を再起動します。

### 2.5.8 PostgreSQL データベースの更新

(条件付き) データベースとして PostgreSQL を使用している場合、このサービスパックでは、既存の PostgreSQL データベースバージョンを 12.2 に更新する必要があります。

---

**重要** : PostgreSQL 12.2 によって提供されるデフォルトの機能のほか、このサービスパックでは SSL (FIPS で構築された OpenSSL 1.0.2u) を使用し、zlib を使用せずに、PostgreSQL データベースを設定できます。このサービスパックには、PostgreSQL Contrib パッケージもバンドルされています。

---

- 1 サーバで実行されている PostgreSQL サービスを停止し、無効にします。
- 2 C:\Netiq\idm\apps の postgres ディレクトリの名前を変更します。  
たとえば、postgres の名前を postgresql\_old に変更します。
- 3 次のコマンドを実行して、古い PostgreSQL サービスを削除します。  
sc delete <"postgres\_service\_name">  
たとえば、sc delete "NetIQ PostgreSQL"
- 4 Identity\_Manager\_4.8.1\_Windows.iso ファイルをダウンロードしてマウントします。
- 5 <ISO mounted location>\common\postgres ディレクトリに移動して、NetIQ\_PostgreSQL.exe ファイルを実行します。インストール中に PostgreSQL オプションのみを選択します。

---

#### 注

- ◆ PostgreSQL の詳細ページにデータベース詳細を入力しないでください。[データベースログインアカウントの作成] および [空のデータベースの作成] オプションの選択が解除されていることを確認します。
- ◆ 古いおよび新しい PostgreSQL インストールディレクトリの管理者特権があることを確認します。

- 
- 6 新たにインストールされた PostgreSQL サービス (NetIQ PostgreSQL) を停止します。  
[サービス] に移動し、<PostgreSQL version number> サービスを検索して、サービスを停止します。

---

**注** : 適切な権限を持つユーザは、有効な認証情報を入力した後で、停止操作を実行できます。

---

- 7 次のアクションを実行して、新たにインストールされた PostgreSQL ディレクトリの許可を変更します。  
(オプション) postgres ユーザが作成されていない場合は、次の手順を実行して、postgres ユーザを作成します。

1. [コントロールパネル] > [ユーザアカウント] > [ユーザアカウント] > [アカウントの管理] の順に移動します。
2. [ユーザアカウントの追加] をクリックします。
3. [ユーザの追加] ページで、ユーザ名として postgres を指定し、そのユーザのパスワードを入力します。

postgres ユーザに、既存の PostgreSQL ディレクトリおよび新たにインストールされた PostgreSQL ディレクトリへの許可を付与します。

1. PostgreSQL ディレクトリを右クリックして、[プロパティ] > [セキュリティ] > [編集] の順に移動します。
2. ユーザに完全な許可を付与するには、フルコントロールを選択します。
3. [適用] をクリックします。

- 8 postgres ユーザとして PostgreSQL ディレクトリにアクセスします。
1. postgres ユーザとしてサーバにログインします。  
ログインする前に、このユーザに対してリモート接続が許可されているかどうかを確認することで、postgres が Windows サーバに接続できることを確認します。
  2. 新しい postgres インストールの場所からデータディレクトリを削除します。  
たとえば、C:\NetIQ\IDM\apps\postgres\data。
  3. コマンドプロンプトを開き、次のコマンドを使用して、PGPASSWORD を設定します。  
set PGPASSWORD=<your pg password>
  4. 新たにインストールされた PostgreSQL ディレクトリに移動します。  
たとえば、C:\netiq\IDM\apps\postgresql\bin。
  5. データベースに設定されているエンコードタイプに基づいて、bin ディレクトリから postgres ユーザとして次の initdb コマンドを実行します。  
エンコードタイプが UTF8 に設定されている場合は、次のコマンドを実行します。  
initdb.exe -D <new\_data\_directory> -E <Encoding> UTF8 -U postgres  
たとえば、initdb.exe -D C:\NetIQ\IDM\apps\postgres\data -E UTF8 -U postgres  
エンコードタイプが WIN1252 に設定されている場合は、次のコマンドを実行します。  
initdb.exe -D <new\_data\_directory> -E <Encoding> WIN1252 -U postgres  
たとえば、initdb.exe -D C:\NetIQ\IDM\apps\postgres\data -E WIN1252 -U postgres
- 9 新しい PostgreSQL bin ディレクトリから PostgreSQL をアップグレードします。次のコマンドを実行して、[Enter] をクリックします。

```
pg_upgrade.exe --old-datadir "C:\NetIQ\IDM\apps\postgres9.6.12\data" --new-datadir  
"C:\NetIQ\IDM\apps\postgres\data" --old-bindir  
"C:\NetIQ\IDM\apps\postgres9.6.12\bin" --new-bindir  
"C:\NetIQ\IDM\apps\postgres\bin"
```

---

#### 注

- ◆ C:\NetIQ\IDM\apps\postgres9.6.12 は、手順 2 で作成された postgresql\_old ディレクトリを示します。
- ◆ 古い postgres ディレクトリと新しい postgres ディレクトリの両方 (パス: C:\NetIQ\idm\apps\postgres\data\ ディレクトリ) に対して pg\_hba.conf ファイルで信頼するように、メソッドタイプを md5 から設定してください。
- ◆ フォルダ名に従って、古い PostgreSQL ディレクトリを変更します。

- 
- 10 正常にアップグレードした後で、古い postgres データディレクトリから新しい postgres データディレクトリ (C:\NetIQ\IDM\apps\postgres\data) に pg\_hba.conf と postgresql.conf ファイルを置き換えます。
  - 11 アップグレードされた PostgreSQL データベースサービスを開始します。  
[サービス] に移動し、<PostgreSQL version number> サービス (つまり、NetIQ PostgreSQL) を検索して、サービスを開始します。

---

**注:** 適切な権限を持つユーザは、有効な認証情報を入力した後で、開始操作を実行できます。

---

12 (オプション) 新たにインストールされた PostgreSQL サービスの bin ディレクトリから古いデータを削除し、サービスが自動的に開始されないようにします。

1. postgres ユーザとしてログインします。
2. bin ディレクトリに移動し、analyze\_new\_cluster.bat および delete\_old\_cluster.bat ファイルを実行します。

たとえば、C:\NetIQ\DM\apps\postgres\bin。

## 2.6 Designer の更新

この更新を適用するには、少なくとも Designer 4.8 を使用している必要があります。更新プロセスでは、以下のタスクを行います。

### 2.6.1 更新の実行

次のいずれかの方法で更新を適用できます。

#### 2.6.1.1 オンライン更新 (自動更新機能を使用)

Designer の組み込みの自動更新機能を使用して、この更新を適用できます。自動更新機能は、Designer ダウンロードサイトで利用可能な新機能について通知します。この機能を使用すると、Designer がインストールされているコンピュータがインターネットに接続されている場合は、Designer パッケージとソフトウェア更新をダウンロードできます。

- 1 Designer を起動します。
- 2 Designer のメインメニューから、[ヘルプ] > [Check for Package Updates (パッケージ更新の確認)] をクリックします。
- 3 [はい] をクリックして、Designer の更新を受諾します。
- 4 変更を有効にするために Designer を再起動します。

#### 2.6.1.2 オフライン更新 (ダウンロードページを使用して更新を適用)

このサービスパックには、Designer を更新するための Identity\_Manager\_4.8.1\_Designer.zip ファイルが含まれています。Designer がインストールされているコンピュータがインターネットに接続されていない場合、Designer のオフライン更新を実行することもできます。オフライン更新を実行するには、まず、ローカルまたはリモートコンピュータにこのサービスパックをダウンロードし、ダウンロードしたファイルを含むディレクトリに Designer をポイントします。

Designer をオフラインモードで更新するには、Designer 更新ファイルのオフラインコピーを作成し、ローカルディレクトリにコピーされたファイルからパッチ更新を読み込むように Designer を設定します。

**Designer 更新ファイルのオフラインコピーを作成するには：**

- 1 [NetIQ ダウンロードページ](#)に移動します。
- 2 [[Patches (パッチ)]] で [[Search Patches (パッチの検索)]] をクリックします。
- 3 検索ボックスに Identity\_Manager\_4.8.1\_Designer.zip を指定し、ファイルをダウンロードします。
- 4 Designer がインストールされているコンピュータにログインして、ローカルディレクトリを作成します。
- 5 ダウンロードしたファイルをローカルディレクトリに解凍します。

ローカルディレクトリからパッチ更新を読み込むように Designer を設定するには：

- 1 Designer を起動します。
- 2 Designer のメインメニューから、[Windows] > [初期設定] をクリックします。
- 3 [NetIQ] > [Identity Manager] をクリックし、[更新] をクリックします。
- 4 URL には、file:///media/<path\_to\_update\_file>/updatesite1\_0\_0/ を指定します。  
Linux にマウントされた ISO の場合、以下の URL フォーマットを使用します：  
file:///media/designer481offline/updatesite1\_0\_0/
- 5 [適用] をクリックし、[OK] をクリックします。
- 6 Designer のメインメニューから、[ヘルプ] > [Check for Designer Updates (Designer の更新の確認)] をクリックします。
- 7 必要な更新を選択して、[はい] をクリックし、Designer の更新を受諾して更新します。
- 8 変更を有効にするために Designer を再起動します。

## 2.6.2 Azul Zulu OpenJRE 1.8.0\_252 の更新

このサービスパックでは、Azul Zulu OpenJRE 1.8.0\_252 (64 ビット) をサポートするように Designer を更新します。

- 1 Designer をインストールしたサーバで、ローカルディレクトリに Azul Zulu OpenJRE 1.8.0\_252 ファイルをダウンロードしてインストールします。
- 2 Designer インストールディレクトリに保存されている Designer.ini ファイルを開きます。
- 3 Designer.ini ファイルの JRE パスを更新します。

## 2.6.3 Analyzer 用 Azul Zulu OpenJRE 1.8.0\_252 の更新

このサービスパックでは、Azul Zulu OpenJRE 1.8.0\_252 (64 ビット) をサポートするように Analyzer を更新します。

1. Analyzer をインストールしたサーバで、ローカルディレクトリに Azul Zulu OpenJRE 1.8.0\_252 ファイルをダウンロードしてインストールします。
2. Analyzer インストールディレクトリにある Analyzer.ini ファイルを開きます。
3. Analyzer.ini ファイルの Java パスを更新します。

## 2.7 Sentinel Log Management for IGA の更新

このサービスパックには、Sentinel Log Management for Identity Governance and Administration (IGA) コンポーネントを更新するための SentinelLogManagementForIGA8.3.0.0.tar.gz ファイルが含まれています。Sentinel を更新する前に、必要なポートが使用可能であることを確認します。

- 1 NetIQ ダウンロード Web サイト <https://dl.netiq.com/index.jsp> からこのバージョンをインストールするサーバに SentinelLogManagementForIGA8.3.0.0.tar.gz ファイルをダウンロードします。
- 2 次のコマンドを実行して、ファイルを抽出します。  

```
tar -zxvf SentinelLogManagementForIGA8.3.0.0.tar.gz
```

---

**注:** novell ユーザ許可持つディレクトリに SentinelLogManagementForIGA8.3.0.0.tar.gz ファイルを抽出してください。NetIQ では、ファイルを tmp または opt ディレクトリ下に抽出することをお勧めします。

---

- 3 SentinelLogManagementforIGA ディレクトリに移動します。
- 4 Sentinel Log Management for IGA をインストールするには、次のコマンドを実行します。

```
./install.sh
```

---

**注:** Identity Manager 4.8.1 では、CEF 監査用に Universal CEF Collector 2011.1r4 をサポートしています。

---

## 3 既知の問題

NetIQ は、弊社の製品が企業のソフトウェアの必要にかなった質の高いソリューションを提供できるよう努めています。次の問題は、現在調査中です。何か問題がございましたら、[テクニカルサポート](#)までご連絡ください。

- ◆ [32 ページのセクション 3.1 「役割ベースのエンタイトルメントを再評価できない」](#)
- ◆ [33 ページのセクション 3.2 「Java リモートローダを使用して Zoomdb ベースのドライバを初期化できない」](#)
- ◆ [34 ページのセクション 3.3 「Designer で定義された既存の関係が比較および展開操作中に使用できない」](#)
- ◆ [34 ページのセクション 3.4 「Identity Reporting をアップグレードした後で、catalina.out に例外が記録される」](#)
- ◆ [34 ページのセクション 3.5 「Identity Reporting ユーザインタフェースからレポートをダウンロードして保存できない」](#)

### 3.1 役割ベースのエンタイトルメントを再評価できない

**問題:** iManager で、Role-Based Entitlement ( 役割ベースのエンタイトルメント ) のプラグインが既存の役割ベースのエンタイトルメントポリシーを再評価しようとするエラーが発生し、Linux および Windows プラットフォームで次の例外 : org.jdom.input.JDOMParseException が生成されます。(バグ 1145494 およびバグ 1166586)

**解決策:** 役割ベースのエンタイトルメントを再評価するには、次のアクションを実行します。

1. Tomcat を停止します。
2. iManager がインストールされている場所に移動します。たとえば、C:\Program Files\Novell\Tomcat\webapps\tps\WEB-INF\。
3. Tomcat web.xml ファイルを変更し、<web-app> XML タグ内に次のパラメータを追加します。



```

<context-param>
  <param-name>param1</param-name>
  <param-value>XMLEditor</param-value>
</context-param>
<context-param>
  <param-name>param2</param-name>
  <param-value>XMLEditor_Packed</param-value>
</context-param>
<context-param>
  <param-name>param</param-name>
  <param-value>XMLData</param-value>
</context-param>

```

4. Tomcat を起動します。
5. iManager にログインし、Role-Based Entitlement ( 役割ベースのエンタイトルメント ) のプラグインをインストールします。詳細については、[27 ページの「iManager の更新後の手順」](#)を参照してください。

## 3.2 Java リモートローダを使用して Zoomdb ベースのドライバを初期化できない

**問題:** Jsva リモートローダを使用して ZoomDB (LDAP ドライバなど) を使用する Identity Manager ドライバを起動すると、クラス com.microfocus.database.builder.ZoomDBBuilder の初期化に失敗し、発行者チャンネルで次のエラーが発生します。

```
An unexpected error occurred in the publisher channel: Could not initialize class
com.microfocus.database.builder.ZoomDBBuilder
```

(バグ 1162310)

**解決策:** 次の操作を実行します。

1. Identity Manager エンジンホストするサーバで、/opt/novell/eDirectory/lib64/nds-modules/ の場所  
に移動し、Java リモートローダを実行しているコンピュータからアクセス可能な場所に  
libzoomdb.so ファイルをコピーします。
2. Identity Manager エンジンサーバからサインアウトします。
3. Java リモートローダがインストールされているコンピュータにログインします。
4. [NetIQ ダウンロード Web サイト](#) から Identity\_Manager\_4.8.1\_Linux.iso をダウンロードして展開  
します。

---

**注:** Java リモートローダの最新バージョンに更新する場合は、Identity\_Manager\_4.8.1\_Linux.iso  
の dirxml\_jremote.tar.gz ファイルを使用します。Java リモートローダのアップグレードの詳細に  
ついては、『[NetIQ Identity Manager セットアップガイド \(Linux 用\)](#)』の「[Java リモートローダ  
のアップグレード](#)」を参照してください。

---

5. <extracted\_patch\_location>/Identity\_Manager\_4.8.1\_Linux/IDM/packages/java\_remoteloader/ ディレク  
トリに移動し、dirxml\_jremote.tar.gz ファイルを目的の場所にコピーします。たとえば、/home で  
す。
6. dirxml\_jremote.tar.gz ファイルを解凍して、展開します。  
たとえば、tar -zxvf dirxml\_jremote.tar.gz です。
7. 手順 1 でコピーした libzoomdb.so ファイルを <extracted\_folder>/lib64/ の場所に配置します。

たとえば、/home/lib64/ です。

8. RL 設定ファイルを使用して LDAP ドライバのインスタンスを初期化します。

例, `"/dirxml_jremote -config <RemoteLoader_Configuration_file> -sp <password> <password>"`

9. コマンドを使用してリモートローダインスタンスを起動します。

`"/dirxml_jremote -config <RemoteLoader_Configuration_file> &"`

### 3.3 Designer で定義された既存の関係が比較および展開操作中に使用できない

**問題:** Designer のアップグレード後に、一部の既存の関係および対応するオブジェクトが比較または展開操作を実行する場合に表示されません。この問題は、関係を定義しているときに [ソース属性] フィールドの [This entity's key (このエンティティのキー)] を選択した場合に発生します。(バグ 1171264)

**解決策:** Designer をアップグレードした後で、オブジェクトを手動でもう一度変更して、オブジェクトを選択できるようにする必要があります。

### 3.4 Identity Reporting をアップグレードした後で、catalina.out に例外が記録される

**問題:** Identity Reporting に Oracle 18c データベースを使用している場合、Identity Manager を 4.8.1 バージョンにアップグレードすると、次の例外が catalina.out ファイルに記録されます。(バグ 1171571)

```
WARNING [main] org.apache.tomcat.util.scan.StandardJarScanner.processURLs Failed
to scan [file:/opt/netiq/idm/apps/tomcat/lib/oraclepki.jar] from classloader
hierarchy
java.io.FileNotFoundException: /opt/netiq/idm/apps/tomcat/lib/oraclepki.jar (No
such file or directory)
```

**解決策:** 機能が失われることはないため、例外は無視してください。

### 3.5 Identity Reporting ユーザインタフェースからレポートをダウンロードして保存できない

**問題:** Linux プラットフォームで、Identity Reporting ユーザインタフェースからレポートをダウンロードしようとする、ダウンロードおよび保存操作が失敗します。(バグ 1171715)

**解決策:** この問題を解決するには、以下の手順のいずれかに従います。

#### web.xml ファイルの変更

- 1 Identity Reporting がインストールされているサーバにログインします。
- 2 /opt/netiq/idm/apps/tomcat/conf/ ディレクトリに移動します。
- 3 web.xml ファイルを変更して、httpHeaderSecurity フィルタの下に以下を追加します。

```
<init-param>
  <param-name>blockContentTypeSniffingEnabled</param-name>
  <param-value>>false</param-value>
</init-param>
```

4 web.xml ファイルを保存します。

5 Tomcat を再起動します。

```
systemctl restart netiq-tomcat.service
```

### CDN Web サイトからレポートをダウンロード

1 Identity Reporting がインストールされているサーバにログインします。

2 [ダウンロード](#) Web サイトからレポートをダウンロードします。

---

注：便宜上、IDM\_Reports.zip が Identity Manager 4.8.1 ISO に含まれています。

- ◆ **Linux:** <ISO mounted location>/reporting/packages/IDM\_Reports.zip
  - ◆ **Windows:** <ISO mounted location>\IdentityReporting\Patch\IDM\_Reports.zip
- 

## 4 連絡先情報

弊社の目標は、お客様のニーズを満たすマニュアルの提供です。改良点に関するご意見は、[Documentation-Feedback@netiq.com](mailto:Documentation-Feedback@netiq.com) (<mailto:Documentation-Feedback@netiq.com>) まで電子メールでお寄せください。貴重なご意見をぜひお寄せください。

詳細な連絡先情報については、[サポート連絡先情報 Web サイト](#)を参照してください。

一般的な会社情報と製品情報については、[NetIQ Corporate の Web サイト](#)を参照してください。

他のユーザや NetIQ のエキスパートとやり取りするには、弊社の[コミュニティ](#)のアクティブなメンバーになってください。NetIQ オンラインコミュニティでは、製品情報、有益なリソースへの役立つリンク、ブログ、およびソーシャルメディアチャンネルが用意されています。

## 5 保証と著作権

保証と著作権、商標、免責事項、保証、輸出およびその他の使用制限、米国政府の規制による権利、特許に関する方針、および FIPS コンプライアンスの詳細については、<https://www.netiq.com/company/legal/> を参照してください。

**Copyright © 2020 NetIQ Corporation, a Micro Focus company. All Rights Reserved.**